

ふるさと門川と将来の夢

門川小学校 五年 藤元 花歩子

みなさん、こんにちは。私は、門川小学校の藤元花歩子です。これから「ふるさと門川と将来の夢」という題で発表します。

みなさんは、門川町が魚の町とよばれるようになったのはなぜか知っていますか。それは、戦後の復興期にさかのぼります。門川の女性達が家計を助けるために、朝、市場で競り落とした魚や加工品をブリキ缶に入れ、それを持って汽車に乗り、延岡市や日向市、さらには宮崎市や都市まで行って、得意先へ届けていた時代がありました。女性達は「カンカン部隊」とよばれ、ブリキ缶の重さは数十斤にもなったそうです。この女性達のおかげで、門川町は魚の町と呼ばれるようになりました。冷凍技術が進歩した現在では見られなくなった、門川町の遺産です。

そんな魚の町門川町ですが、私の夢をかなえることができれば、もっともつと有名にできます。その夢とは、水族館を建ててその館長として働くということです。その水族館を門川町に建てるのができれば一番良いのですが、それができなくても、門川町でとれた魚を展示して、見に来た人々に伝えれば、有名になると思います。そうすれば、門川町に興味をもち、魚の町ということだけではなく、伝統的な「だんじり」など、たくさんの人に門川町を知ってもらえると思います。

私は、魚が大好きです。五才くらいの時に、うみたまごという水族館に行って、そこでカゴカキダイという魚に出会いました。小さくて白と黒と黄の色をした魚です。食べたことはありませんが、とてもおいしそうです。宮崎大学農学部村瀬先生が編集された「門川の魚図鑑」にも、バッチリのっていました。

うみたまごでは、エイにふれることができるコーナーもあって、実際にはめつたに見ることもできないエイに、たくさんふれることができました。私の水族館でも、タッチプールを作りたいです。

他にも、お泊まり水族館といって、夏休みに水族館にお泊まりができるという企画もありました。それに参加している中で、水族館の裏側を見ることができ、バックヤードツアーをしたり、夜の魚の様子を見たりしました。その時周りをみると、みんな楽しそうに笑っていました。人の命を助けることも役に立つことだけど、人が楽しいと思うような仕事をすることも、人の役に立つ仕事だと気がきました。このことよって、さらに水族館を建てたくまりました。

このように、魚にふれる機会が身近にもつとあればいいのになあと思う中で、考えついたことが一つあります。それは、門川町内で泳いではいけない海や川を整備して、みんなが楽しく泳げる海や川にしていきたいということです。毎年夏休みに行く牧水公園には河川プールがあつて、たくさんの魚やエビがいて、あみでとれます。水はすぐきれいでスキ通っています。兄二人は岩場に乗ってつりをします。川で泳いでいる私と姉は、時々上がつて兄達の様子を見るのが楽しいです。門川町にある川や海も、水質や安全性を改善して泳げるようになり、家族で楽しめる場所が増えて欲しいです。

これら二つのことを実現するには、三つのことが大切だと思います。

一つ目は、お金をためるということです。お年玉などをこつこつためていったり、給料をためたりすることが必要だと思います。私が働く場所は、みなさんの予想通り水族館です。水族館で

働けば、魚のことをたくさん知ることができます。

二つ目は、魚の知識をもっと身に付けるということです。魚に関する本をたくさん読んだり、海や川でのイベントに積極的に参加したりしたいです。また、世界中の水族館巡りをしたいです。そのためには、英語が話せるようにならないといけません。これは、私の水族館に来るであろう外国人観光客と話すためにも、重要だと思います。

三つ目は、海や川に遊びに行った時には、ゴミ拾いをするということです。ゴミは、海の環境を悪くするし、私達人間にも悪影響を与えます。なぜかと言うと、海に流されたゴミはほとんど小さくなり、エサと間違えて小魚が食べます。その小魚を大きい魚が食べます。それを人間が食べることになるので、結局私達にもどつてくるのです。最近の報道では、イワシ千匹の体の中から、プラスチックゴミが見つかったそうです。川や海にゴミを捨てないようにして、ゴミを見つけたら拾うようにしたいと思います。

私は、これらのことを実行し、夢をかなえ、魚の町門川町を、もっとたくさんの人に知ってもらいたいです。そして、いつまでも活気あふれる門川町にしていきたいです。

これで、私の意見発表を終わります。
